

2023年度モニタリング結果速報!

しゃくじい
石神井池
水辺
しんぶん

かいぼりを軸とした水辺再生の取組をつたえる

No. 8
2024年3月

登録番号 5(B)

発行
東京都
東部公園緑地事務所

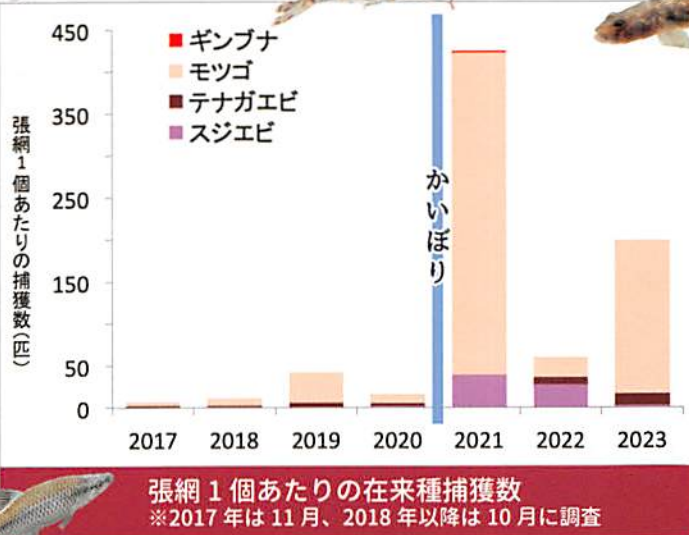


編集
認定 NPO 法人 生態工房

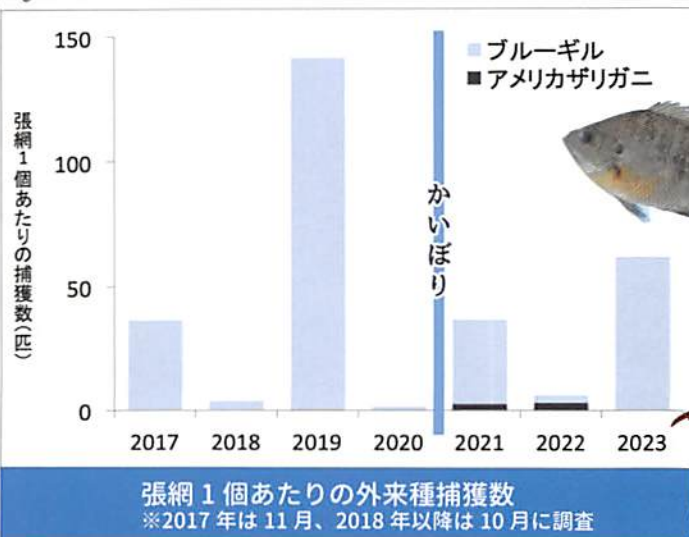


小魚・エビが たくさん!

一方、減少した種も…



石神井池では、生物の生息状況を通して池の環境を把握する目的で、張網（定置網）に入る魚やエビの数を調査しています。これまでの調査からは、2021年1月〜3月に行ったかいぼりでオオクチバス（ブラックバス）などの外来魚を駆除したことが功を奏し、在来種の数が増加したことがわかっていきます。2020年までは1網で捕れた在来種は50匹未満でしたが、かいぼり後は50〜400匹以上に増加しました。また、かいぼり前はモツゴ以外の在来種は少数しか捕獲されていませんが、かいぼり後にはエビ類が顕著に増加しています。



2023年の調査では、在来種は依然として多く生息しているもののピーク時の2021年よりも減少していった。今後の推移を注視していく必要があります。

外来種は、張網での捕獲数は在来種ほど多くありませんでしたが、少数だといえるレベルではない状況です。かいぼりでは多数の外来魚を駆除しましたが、捕り切れなかったものが繁殖して再び増加していることも予想されます。引き続きモニタリングを行い、対策を講じていきます。

⚠️ ニシキゴイまた投棄される!

水辺の自然再生に取り組んでいる石神井池では、2021年にかいぼりを行い、コイなどの外来魚を駆除しました。

しかし、かいぼり後にもニシキゴイが投棄され、2022年以降に21匹以上が捕獲または死体で回収されています。これに加えて、2024年1月以降に20匹ほどの群れが確認されるようになっていきます。

コイは水生昆虫や貝、水草などを食べるほか、摂食時に泥を巻き上げて水を濁らせます。コイヘルペスウイルス蔓延防止の観点からも放流が禁止されています(罰則あり)。こうした外来種の持ち込みを自撃した場合に東京都または公園サービセンターに連絡してください。



しゃくじい自然図鑑

ヒメガマなどの抽水植物が多い池に生息し、チョウのようにひらひら飛ぶトンボ。石神井池では夏に少数が見られます。2023年は出現数が多く、7月の調査では28頭が観察されました。

東京都レッドリスト
準絶滅危惧(区部)



チョウトンボ

ピックアップ! News

園芸スイレン掘り取り

石神井池では公園管理者と活動団体の協働を広げていく目的で、かいぼりを行ってきた。2021年から月例の活動日を設けています。2023年12月には初めて三宝寺池側に場所を変え、園芸スイレン除去を行いました。



これまでの管理では遮光シートを被せて枯死させる方法や、コウホネの周囲での刈り取りを行ってききましたが、今回の協働では、活動メンバーの人数と根気にものを言わせ、遮光シートの周縁部の根茎を掘り取りました。深い泥に難儀しながらも、石神井池のキショウブ掘りで養った作業動を活かし、大量の根茎を掘り出すことができました。

今春以降は、取りこぼした根茎から伸びてきた茎葉を刈り取ってスイレンを衰退させ、在来植物の生育範囲の回復を図っていきます。



※園芸スイレンは生態系被害防止外来種リストで「重点対策外来種」に選定されています。